

事例16: SNSによる発信を活用したイメージアップ&職員のやりがいアップ戦略

発表テーマ: 職員生き生き支援／職員採用／イメージアップ

事業所名: 特別養護老人ホーム清華苑ほか

担当者: 法人本部 田村 智之

施設・事業所紹介

特別養護老人ホーム清華苑や老人保健施設 清華苑養力センター、グループホーム清華苑などの入所施設を中心とした高齢者総合福祉施設。通所事業所や訪問事業所、居宅介護支援事業所の他、地域連携の窓口でもある「清華苑ふくし相談センター」を運営。すべての事業所を明石市大久保町内に集約しています。

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

以前は広報誌や冊子などの紙媒体で発信することが多かったが、SNSを通して情報収集をする人たちが増えてきたことやコロナ禍で直接見に来てもらったり会って伝えることが難しくなったことで、紙媒体の代替手段としてSNSにも力を入れるようになりました。

2 具体的な取組内容

集中的に取り組む期間とフォロワー数の目標値を設定し、担当者、更新頻度や運用方法などを決めて取り組みました。特に Instagram と Twitter、YouTube の3つに力を入れました。

3 成果と評価

期間内にフォロワー数の目標値をクリアできました。投稿した画像や動画に写っている職員が家族や恩師に元気な姿を見せることができた喜んでいたり、求職者が事前にSNSの様子を見て志望動機が高まったという声もありました。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

SNSは多くの事業所が取り組んでおり、ほとんどが無料で利用できるのですが基本的には活用を薦めたいが、使い方を間違えるとマイナスの影響も働くので運用する前にルールをきちんと決めておく方が良いと感じています。

【参考資料など】

Instagram
(7179 名)



Twitter
(2751 名)



YouTube
(195 名)



※フォロワー数は
すべて 2023 年
2 月 22 日時点

事例17:老いるも、活きるも、取り組み次第

発表テーマ:健康維持など／利用者生き生き支援

事業所名:清華苑シルバーライフ

担当者:生活相談員 村上 卓也

施設・事業所紹介

平成8年に自立型ケアハウスとして定員36名で開設しました。大久保町の高台に立地し、最上階の展望食堂からの眺めは見晴らしもよく、播磨灘や淡路島を一望できます。浴室は、男女別の大浴場があり、朝7時から夜21時半まで自由にご入浴できます。トゴール鉱石を利用した準天然温泉が好評です。居室の広さは、26～28㎡でIHコンロとシンクがあり、簡単な調理を行う事が可能です。近隣のスーパーに買い物送迎支援のバスを運行して日常生活のサポートを行っています。要介護認定を受けられている方は、在宅介護サービス(訪問介護、デイサービスなど)を利用する事も出来ます。

苑内イベントや外出行事もたくさん企画しており、利用者がケアハウスでの生活を自由に楽しく謳歌できるよう支援させて頂いています。



【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

開設当時は、大正生まれの方が入居者の半数以上を占めていたが、開設20年以上経過した現在では、昭和・平成生まれの入居者が半数を占めるようになりました。入居者層の移り変わりとともに季節行事を行う程度の旧態依然のサービスでは、健康志向がより高くなっている利用者ニーズとのギャップも生じてきていました。施設側の変革が必然的に求められるようになり、健康寿命延伸やフレイル予防に向けた取り組みを進めました。

2 具体的な取組内容

健康寿命延伸に向けた活動、入居者間交流のイベントなどを企画する事により、入居者の心身機能維持・生活の質の向上を目指しました。またその取り組みの効果測定として、介護予防のための生活機能チェックを年1回全入居者に実施しています。

2016年 3月	午後の喫茶(お茶会・コーヒーや紅茶、お茶菓子を提供)を月1回実施。
2018年 5月	生き生き倶楽部を実施。「週1回・30分から無理なく始めよう!」をキャッチフレーズに苑内外のウォーキング活動にスタッフが付添い対応をする活動を開始。主に要介護認定を受けておられる方を対象として週1回の頻度で実施。

2019年 7月	健康教室(集団体操)を週2回実施。 華倶楽部(レクや作業活動)を週1回実施。
2019年10月	ジョイサウンド(健康王国)を導入し、映像を視聴しながらの体操にシフト。
2020年10月	介護予防のための生活機能チェックを年1回実施。

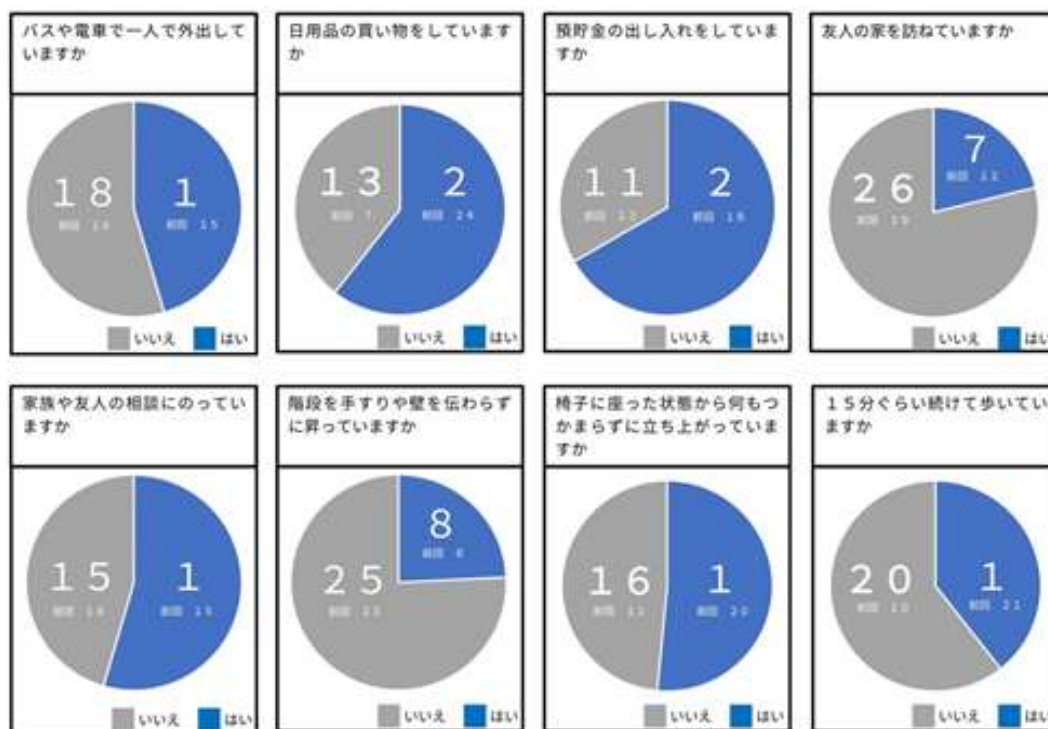
3 成果と評価

入居者が生き生きとした生活を送る事ができるか否かは、環境因子として施設側の取り組みが大きく影響するという事をスタッフが認識する事から始め、入居者に対しても丁寧な説明を行い、相互共通理解のもとで少しずつ開催頻度を増やし進めてきました。

介護予防のための生活機能チェックでは、入居者自身が現状を客観視できるように、個々の結果をフィードバックし、また全体の集計結果を年度ごとにグラフ化し、意識や行動の変化を確認しました。コロナ禍の外出制限や面会制限の影響を受けた影響などが顕著に見られたが、そもそも活動をしていなければ更なる心身機能の低下を招いていたかもしれないと考えています。

スタッフ主体での集団体操は、担当者のスキルによって活動の質が大きく影響し、またマンネリ化しやすい傾向もある為、ジョイサウンド(健康王国)を導入。これにより、バリエーションの幅がひろがり、一定の質を確保する事ができました。

ICFの生活機能モデルの観点である心身機能維持、活動、参加の機会に繋げる為、生き生き倶楽部では一定回数をクリアすると苑内イベント「午後の喫茶」の無料ドリンクチケットが1枚貰える仕組みとしました。チケット獲得が一つのマイルストーンとなり、達成感の獲得や連動するイベントに参加する事によって、更なる入居者間交流の機会に繋がりました。





令和3年度活動実績

健康教室 年間90回実施
 生き生き倶楽部 年間65回実施
 華倶楽部 年間45回実施
 お茶会 年間15回実施

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

それぞれの活動への参加は、入居者の自由意思に基づいているため、一定数参加されない入居者もいます。ひとりひとりの入居者の想いを汲み取り、そっと見守りさせて頂く支援も同時に必要だと考えています。



【参考資料など】

介護予防のための生活機能チェック 健康長寿ネット

<https://www.tyojyu.or.jp/net/check/index.html>

事例18:高校生への授業を通して得た「地域とのつながり」と「職員のスキルアップ」

発表テーマ:人材育成／職員生き生き支援／地域との連携

事業所名:老人保健施設 清華苑養力センターほか

担当者:法人本部 田村 智之

施設・事業所紹介

特別養護老人ホーム清華苑や老人保健施設 清華苑養力センター、グループホーム清華苑などの入所施設を中心とした高齢者総合福祉施設。通所事業所や訪問事業所、居宅介護支援事業所の他、地域連携の窓口でもある「清華苑ふくし相談センター」を運営。すべての事業所を明石市大久保町内に集約しています。

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

施設内の業務に従事するだけでなく、地域に出向いて介護技術の伝達や仕事の魅力を発信する機会が欲しいと考えていたときに、講師派遣の依頼が来たことで始まりました。

2 具体的な取組内容

「兵庫県立明石南高等学校 総合学科」を対象に、年間6回～7回程度のカリキュラムを組んで授業を行っています。内容は移乗介助や車いすの操作などの介護技術の他、コミュニケーションの方法や認知症のことなど多岐に渡っています。例年、2年生・3年生合わせて4クラスを対象としています。※学年全クラスではなく、福祉系の選択授業のみ対象。

3 成果と評価

職員にとっては地域とのつながり(地域貢献)を実感することができ、また人前で話したり、技術を伝える能力を高めることにもつながっています。

現在は、高校での経験を踏まえて、中学校や専門学校にも単発ではあるが講師を派遣しています。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

講師選定においては、慣れている人を選定したり、向いている職員に偏りがちになるが、人材育成や働き甲斐の視点で考えた場合は、できる限り複数の候補者を育成して、経験できる職員を増やす方が望ましいと考えています。

【参考資料など】

